

道徳科学習指導案

平成29年7月1日第3校時
稲城市立城山小学校第6学年
授業者 後藤 忠

- 1 主題名 すがすがしい気持ち A[正直、誠実]
教材名 手品師（小学校道徳の指導資料とその利用1：文部省・昭和51年3月）

2 主題設定の理由（授業者の指導観）

(1)ねらいとする道徳的価値について

人間が健康的で明朗な自己像を描くためには、自分自身に対する誠実さをもつことや、明るく楽しい生活を心掛ける姿勢をもつことが大切である。うそやごまかしのある生活からは健康的で明朗・快活な生活は実現しない。したがって、自分の良心に正直であることのすがすがしさを実感し、自覚し、明るい生活を実現しようとする気持ちを育てることは大切である。

とはいえ、人は恐れや不安、損得利害や恥ずかしさなどから自分を守るために、つい嘘をついたりごまかしたりしてしまうことがある。このことは表面上は相手に対する嘘やごまかし、裏切りといった形で表れるが、実は自分自身に対する大きな罪を犯しているのである。その結果、自分自身の心は曇り、元気のない暗い気持ちに陥ってしまうのである。

自分の良心に誠実に生きるということは、自分自身の尊厳を静かに光らせ、輝かせることに他ならない。

(2)児童の実態について

<省略>

(3)教材について

腕はいいがあまり売れない手品師が、大劇場のステージで華やかに手品を演ずる日が来ることを夢見て腕を磨いていた。ある日、町でしょんぼりとしている男の子を励ますために手品を見せ、明日も必ず手品を見せると約束する。その夜、友人から手品師の夢である大劇場に出られるチャンスがあると知らせが入る。手品師は迷いに迷うが、そのチャンスを捨てて男の子との約束を果たすという話である。

本教材は、自分の夢と男の子との約束の間で葛藤し、悩んだ末に男の子との約束を選び、それを果たす手品師の考えを共感的に深く理解する学習を通して、自己の良心に誠実に生きることの大事さや、そのすがすがしさを実感するのにふさわしい教材だと考え選択した。

教材分析表

場面の概要	手品師の心の動き（内面）	学習活動・発問
①手品師はいつかは大劇場のステージに立てる日の来るのを願って腕をみがいていた。	・大劇場で早く手品ができるほどになりたいな。 ・夢だけで終わらせたくないな。 ・大劇場で手品ができるようになるためにもっと手品が上手くなるように頑張ろう。	
②しょんぼりと道にしゃがんでいる男の子に「どうしたんだい。」と声をかけた。	・どうしたんだろう。何かあったのかな？ ・寂しそうだな。かわいそう。 ・見て見ぬふりはできない…。 ・誰も声をかけないのかな。	
③男の子から、お父さんが死んだあと、お母さんが働きに出て、ずっと帰ってこないことを聞いた。	・そんなに寂しい思いをしているんだ。 ・かわいそう。 ・どうにかしてあげられないかな。	
④手品師は手品を男の子に見せた。	・手品を見せたら喜んでくれるかな。 ・手品をして喜ばせてあげよう。 ・男の子の喜ぶことをしてあげたい。 ・元気を出してほしい。	
⑤男の子の顔は、明るさを取	・男の子が喜んでくれてよかった。	

り戻し、すっかり元気になった。	<ul style="list-style-type: none"> ・このまま元気になってくれるといいな。 ・手品にはすごい力があるんだな。 	
⑥「おじさん、明日も来てくれる？」と男の子に言われた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの手品をこんなにも喜んでくれたんだ。 ・こんなに喜んでくれるとは思わなかった。 ・手品を男の子に見せてよかったなあ。 ・もっと男の子に手品を見せたいな。 	
⑦「ああ、来るともさ」と手品師が答えた。	<ul style="list-style-type: none"> ・絶対来るよ。 ・男の子に手品をして、また喜ばせてあげたい。 	
⑧「きつとだね。きつと来てくれるね。」と男の子に言われて、「きつとさ。きつと来るよ。」と答えた。	<ul style="list-style-type: none"> ・こんなにも喜んでくれたのなら明日来よう。 ・必ず来るから、待っていてね。 ・こんなにも楽しみにしてくれるとは思わなかった。 ・どうせ明日も暇だから来てやろう。 	
⑨友人から電話があり、大劇場に出られるチャンスがあることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・えっ！嬉しい。 ・やっとチャンスが回ってきた。 ・これで、夢がかなうかもしれない。 	
⑩「1日延ばすことができないか」と友人に聞いた。	<ul style="list-style-type: none"> ・男の子との約束がある…。どうしよう。 ・夢をかなえたいし、男の子との約束も守りたい。 	
⑪延ばすことができないと分かり、手品師は迷いに迷う。 * 大劇場に行きたいと思う手品師 ※ 約束を守らなければならないと思う手品師	<ul style="list-style-type: none"> *二度とないチャンスかもしれない・・・。 *これを逃したら一生夢はかなわないかもしれない。 *有名になれかもしれない。 *お金持ちになれる。 *せっかくの友人からの誘いだし、大劇場も困っているだろう。 *男の子とは今日初めて会ったばかりだし、男の子が明日必ず来るとは限らない。 ※男の子はあんなにぼくの手品を楽しみにしているのに、明日行かなかったら悲しむ。 ※男の子に悪い。 ※男の子を裏切ったら、一生後悔が残る。 ※男の子を裏切ったら、手品師として失格だ。 ※先に約束したのだから、守るべきだ。 ※大人が約束を守らないのは恥ずかしい。 ※大劇場に行っても気持ちよく手品ができない。 ・どうしよう、心がモヤモヤする。 	(1)
⑫手品師は、受話器を持ちかえると、「明日は行けない。」ときっぱりと言いきった。	<ul style="list-style-type: none"> ・大劇場を選んでも気持ちはすっきりしない。 ・男の子との約束は守るべき。 ・あんなに楽しみにしている男の子を裏切るわけにはいかない。 ・ここで決断すれば、迷いがなくなる。 	
⑬「ぼくにとっては大切な約束なんだ。」と友人に話す。	<ul style="list-style-type: none"> ・友人にはすまないが、男の子との約束は自分にとって破れない約束だ。 ・約束はやっぱり守らなくてはいけない。 ・これを破ってしまったら、自分は恥ずかしい人間になる。 ・小さな男の子を悲しませるようなことは僕にはできない。 ・行かなかったら男の子がかわいそう。 ・やっと元気になったのに、約束を破られたらまた元気をなくしてしまう。 ・男の子を裏切るようでは手品師として失格だ。 ・ 	(2)

<p>⑭たった一人のお客様を前にして、次々と素晴らしい手品を演じていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男の子の笑顔が見せられて、後悔はない。 ・約束を守って気持ちがいい。 ・自分がよしと決めたことは間違っていない。 ・大劇場に行っていたら、こんな気持ちになれずにモヤモヤしたままだっただろう。 ・すがすがしい気持ちだ。 ・大劇場に行っていたら、男の子のことが気になって手品を失敗したかもしれない。 ・僕はつくづく運の悪い男だ。 ・昨日でなかったらよかったのになあ。 	<p>(3)中心発問</p>
--	---	----------------

3 本時のねらい

手品師の葛藤と決断を共感的に深く理解する学習を通して、自己の良心に恥じない誠実な生き方をしようとする心情を育てる。

4 学習指導過程

学 習 活 動	主な発問と期待される児童の反応	指導上の留意事項等
<p>1 ねらいとする道徳的価値について課題意識をもつ</p>	<p>○ どんな時に「すがすがしい気持ち」を感じる(た)かを互いに伝え合い、学習課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな「すがすがしさ」があるが、共通して「心に曇りがない」「心が澄んでいる」状態であることを押さえる。
<p>2 教材「手品師」の前半(「友人はもうすっかり決め込んでいるようです」まで)を読み、手品師の迷いや葛藤を役割演技を通して共感的に理解する</p> <p>3 教材「手品師」の後半を読み、手品師の決断と気持ちについて考える。</p>	<p>(1) 手品師が迷いに迷う場面を4人グループで2:2になって役割演技をする</p> <p>A 役 大劇場に行きたい手品師</p> <p>B 役 男の子との約束を守ろうとする手品師</p> <p>(2) 「そうだ、ぼくにとっては大切な約束なんだ」と言った手品師は、何を大切にしている男の子との約束の方を選んだのか</p> <p style="text-align: center;">*男の子のため (赤い印) *自分のため (青い印) ↓ 止揚・統合</p> <p>(3) たった一人のお客さまを前にして次々と素晴らしい手品を演じていた手品師は、どんな気持ちで演じていたと思うか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すがすがしい気持ちだったと思う ・これでよかったという思いだった ・男の子の笑顔がうれしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・主な登場人物を紹介し、手品師に注目して読むよう指示する。 ・臨場感ある教材提示に努める。 ・A 役から口火を切る。 ・すぐに B 役が「しかし」と反論する。これを交互に「止め」と言われるまで繰り返す。(相手に言い負かさないで最後まで反論するよう指示する。) ・途中で役割交代を行う。 ・役割演技中に聞き取った手品師の言い分を分類・整理して板書しておく(役割演技後、全体での発表はしない) ・B の板書は「男の子のため」と「自分のため」に分けて書いておく ・A の「大劇場に行きたい手品師」の板書を消してから発問する。 ・B の板書の中で考えさせる。 ・B の板書に赤と青の印をつけていく。 ・議論を尽くさせる。 ・議論が平行線をたどった時、両方の考えを止揚・統合する考え(紫の考え)はないかと補助発問し、さらに深く考えさせる。 ・4 番目のような反応が出てきた場合には、補助発問で考えを深めさせる。

	・後悔する気持ちは少しはあったと思う	
4 自分を見つめる	*自分の勝手に人との約束を破ったり、うそをついたりしてしまったとき、どんな気持ちになったか	・座席を前向きにする。 ・A6判の用紙に書かせる。 ・発表はさせない。
5 授業者の説話を聞く。	*小学校6年生のときの苦い体験談を聞く。	・吉川君の黒いセーターの思い出。

5 評価

- ・手品師の葛藤を共感的に理解し、自己の良心に誠実に生きることの大切さと難しさを味わう（2の(1)、(2)）
- ・正直は、明るい生活を送る上で大事なことだと理解（自覚）する（4展開の後段）（5終末）

授業記録（T：授業者 C：児童）

<導入>

T：今までに「すがすがしいなあ！」（カード掲示）と思ったことを話し合おう。どんな時にそう思ったか、4人（グループ内）で紹介し合おう。

C：テストで100点取った時、朝起きて晴れていた時、野球の試合に勝った時、山登りで頂上に着いた時…（全体発表はしない。）

T：いろいろな「すがすがしい」があつてみんな違っていただけ、共通していることがあつたと思う。それは「心が晴れ晴れとしている」とか「心に曇りが無い」とか「心が澄んでいる」ということではなかったか。今日はこの「すがすがしい気持ち」について考えていこう。

<展開の前段>

（教材「手品師」を配布し、シルエットで主な登場人物を紹介する）

T：特に、「手品師」に注目して読んでいこう。

（「友人はもうすっかり決め込んでいるようです」までを、「間」に留意して臨場感を込めて教材提示する）

T(1)：手品師の頭の中では **A 大劇場** の華やかなステージにスポットライトを浴びて立つ自分の姿と、さっき会った **B 男の子** の顔がかわるがわる浮かんで消え、消えては浮かんでいました」という場面をグループで役割演技しよう。

（学習指導案の「指導上の留意点」通りに指示し、役割演技をさせる。児童が役割演技中に板書する。）

手品師 A

- ・ とうとう夢がかなう。
- ・ 有名になれる。
- ・ お金持ちになれる。貧しくなくなる。
- ・ 2度とないチャンス。
- ・ もう若くはない。
- ・ 大勢のお客の前で手品ができる。
- ・ 友人の親切な誘いを断れない。

手品師 B

- ・ (男の子を) また悲しませたくない。
- ・ (男の子が) かわいそう。
- ・ (男の子が) 怒る。大人を信用しなくなる。不良になる。
- ・ (大劇場に行っても) 気持ちよく手品ができない
- ・ 手品師として失格。信用を失う。
- ・ 約束が先だ。
- ・ 一生ずっと後悔が残る。

T(2)：手品師は友人に「そうだ、ぼくにとっては大切な約束なんだ」と言った。手品師は何を大切にしたいと思って男の子との約束を選んだのだろうか。

(この時の手品師には手品師Aの気持ちはなくなっていることを確認してから、手品師Aの板書を消す。)

手品師は何を大切にしたいと思ったか、手品師Bの板書の中で考えよう。

(児童の発言をチョークで色分けしていく)

- (男の子を) また悲しませたくない。
- (男の子が) かわいそう。
 - ・ (男の子が) 怒る。大人を信用しなくなる。
- (大劇場に行っても) 気持ちよく手品ができない。
- 手品師として失格。信用を失う。
- 約束が先だ。
- 一生ずっと後悔が残る。

T：(○は男の子のため、○は自分自身のため、と押さえてから)

手品師は誰のために男の子との約束を守ったのだろうか。グループでさらに話し合ってみよう。

T：(議論が平行線なので) 誰か○(紫)の考えはないか。(補助発問)

(全体で話し合う)

(C：省略)

T(3)：翌日、小さな町の片隅でたった一人のお客様を前にして、次々と素晴らしい手品を演じていた手品師は、どんな気持ちで演じていただろう。(中心発問)

C：すがすがしい気持ちで

C：これでよかったという気持ちで

C：スッキリした気持ちで

C：男の子が喜んでくれてよかったという気持ちで

C：大劇場に出たかったという気持ちはあったと思う。

C：運が悪かったなあ、昨日でなければよかったなあ

(発言を分類・整理して板書し、「この時の手品師はどちらの気持ちが大きかったらう」と補助発問する)

C：それは「すがすがしい気持ち」の方が大きかったと思う。

<展開の後段>

T：自分の都合で人との約束を破ったり、うそをついたりしたとき、どんな気持ちになったか。

(A6判のワークシート。書く時間を5分設ける。発表はさせない)

<終末>

T：(授業者が小学校6年生の時の胸が痛む失敗体験を話し、「こういうことは、された方よりした方がいつまでも引きずる」と締める。)